

リレー記事 No.104

パークアンドライド

2015年のCOP21で採択された「パリ協定」では、法的強制力はないものの、全ての国に温室効果ガス排出削減の目標の策定とその実施が求められることとなりました。それを受けて日本では、温室効果ガス排出量を2013年度から比べて、2030年までに26%、2050年までに80%削減を目指しその取り組みがはじまっています。

家庭から排出される温室効果ガスを減らす取り組みのひとつとして、自家用車の利用方法の再考があります。CO₂削減に加えて渋滞を緩和する方法の一つとしてあげられる「パークアンドライド」は、最寄りの駅やバス停の近くに駐車をし、公共交通機関を利用して目的地に行くしくみをいいます。都市部への自家用車の流入を押さえ渋滞が解消されると、走行する車の燃費が良くなりますし、車そのものの数が減ることが省エネに繋がります。



古賀市近隣では、「かえっこ」イベントでお世話になっているイオンモール福津で、駐車場利用の登録者を募集しています。天神・博多へ通勤、通学している方を対象に、福岡県、福岡市、福津市、JR九州、西鉄バス、JR九州バス、イオンモール福津が協力して運営をしています。登録にはイオンの商品券か電子マネーへのチャージが必要ですが、購入分は店舗で使用でき、平日の23:00まで無料で駐車できます。

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/18759.pdf>

将来を考えたとき、技術の進歩を待つだけでなく、身の回りの生活習慣を見直すという小さな行動の積み重ねも大きな力になるのではないかと感じています。



※福岡県では、ホームページに県内で利用できる駐車場や優遇制度を紹介し、パークアンドライドへの参加を呼びかけています。

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/pandr.html>

《Yっち》

食品ロス

「食品ロス」という言葉を聞かれたことありますか。食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられている食べ物のことです。日本では年間の食品ロスが約632万トンあると言われています。これを日本人1人当たりに換算すると、毎日お茶碗約1杯分の量を捨てていることになります。

もったいない!!「食品ロス削減」するには

- ①食材の買いすぎず・使い切る・食べきる
- ②残りものおかずは、別の料理に活用して食べきる
- ③賞味期限と消費期限の違いを理解する
- ④外食でも食べ残しをしない



職場のスタッフに「よく余りがちな食品」について尋ねたところ、使い切れないドレッシングや調味料、海苔の佃煮、ジャム類、煮物、乾物などが多くあがりました。また、家族の急な夕飯キャンセルも悩ましいことです。また、お歳暮やお中元、お返しなどの頂き物は好みの問題もあって家族に食べて貰えないなど、捨てるに捨てられない主婦のお悩みが聞かれました。

皆さんの意見を元に「余らせたらもったいない」を減らすために、うどんピザのレシピを考案しました。

うどんピザレシピ

生地: うどん麺1袋

具材

材料

1:1 のり

ソース

レタスの外葉

ミニトマト

小ねぎ

<作り方>

- ①うどん麺 は袋の2箇所に数mmカット、電子レンジで30秒ぐらい温める。
- ②温めたうどん麺を袋ごとみもみしてから、手のひらで押し生地に作る。
- ③温めたフライパンに油をひき、うどん麺を袋から出して入れ、片面がきつね色にこんがり焼いたら、ひっくり返して火を止める。
- ④ソースを塗った上に細切りしたレタスをのせ、シーチキンを少しずつのせる。とろけるチーズをのせ、小葱、ミニトマト、細切りベーコンをのせたら、蓋をして3分蒸らし焼きして出来上がり。



QRコード



このメニューの一押しは、ピザ専用のソースを買わなくても、余り物で作れるソース。トッピングの具材は何でも可。是非お試し下さい。

《Kまま》

★この「うどんピザ」は、福岡県インターネットテレビの動画配信、または YouTube で見る事が出来ます。

しろくまプロジェクト 平成28年度報告と寄付のお願い

しろくまプロジェクトは、H23年度に始めた寄付推進と環境教育推進両輪とする企画です。28年度は皆様の志を受け、県内23校（25回）1,976の子ども達に体験型環境教室（しろくま教室）をプレゼントできました。また、福岡女子大学国際文理学部環境科学科岩崎研究室と連携し、しろくま教室の効果性を検証することができました。そのほか、社会貢献と幸せのつながりを考える「ハッピーすごろく」を作成しました。

H28決算(しろくま教室:23校25回)			
収入	寄付金	773,000	個人:28名(186,000円) 団体:4(587,700円) *団体に、三井・住友銀行ボランティア基金571,000円を含む
	事業収入	280,720	講師謝金 説明会参加費
	計	1,053,720	
支出	人件費	601,478	スタッフ6名 要項発送作業、講師手当、教具・教材試作等を含む
	旅費交通費	106,360	学校への打合訪問や教室補助ボランティアの交通費を含む
	通信費	63,937	主に募集要項送付郵送料
	消耗品費	168,093	教具・教材づくりやしろくま教室の体験に必要な消耗品、プレゼント用しろくますごろくなど
	賃借料	15,250	説明会会場の賃借料
	図書費	2,160	
	広報費	12,705	
	雑費	524	
	租税公課	2,400	道路使用許可
	管理費	78,390	
計	1,051,297		



▲鍋炊飯のようす

上記決算書の通り、28年度は、三井・ボランティアボランティア基金から寄付を受け、本企画にかかる費用総額を算定できました。



今年度はしろくまプロジェクト第1期(5カ年)の最終年です。しろくま教室はもちろん、「ハッピーすごろく」のワークショップをがんばりたいと考えています。ご興味がありましたら、どうぞお気軽にお問合せ下さい。

《S》

※29年度報告会「しろくまカフェ」は、30年2月18日(日)を予定しています。

未来を創ろうインタビュー

No.55 西部ガス興商(株) 代表取締役社長 柘植 明善 氏

今年度最初のインタビューを受けてくださったのは、エコけんの会員でもいらっしゃる柘植社長です。「自宅でもいいですよ。」というお言葉に甘えて、ご自宅でお話を伺ってきました。

「いただいたインタビューシートを見ながら、企業人として話すのか、個人として話すのか迷うところがあったんですよ。」と笑いながら、ざっくばらんにお話をしてくださいました。私たちからの質問が大卒過ぎて、柘植さんを困らせてしまっていたのかもしれない。



Q. 未来のために、今、何が重要だとお考えですか

A. 企業は利益を得るということと、適切なサービスを提供するという企業倫理を両立する必要があると考えていますが、サービスを受け取る側であるお客様も、そのサービスが本当に必要なのか、選ぶ必要があると思います。

Q. そのためにご自身が暮らしの中で心がけていることがあれば聞かせてください。

A. 個人として、過剰なサービスを「いらない。」という勇気を持つことです。

未来を創る私の思い

「会社は社会の公器」

企業のトップを務められる柘植さんからいただいた未来へのメッセージには、社会を構成する企業人としての自負を感じました。企業の使命として、利益の最大化のみならず社会的責任を果たすことが重要であり、その実現にはサービスの受け手側の選択も不可欠となります。つまり「会社は社会の公器」と胸を張れる社会を、みんなで目指したいというメッセージをいただいたのだと思います。

私たちの暮らす社会には多様な仕事や立場があり多様な暮らし方があります。インタビューを通し、多様なひとりひとりが社会の担い手であり、未来づくりに直接関わっているのだと考えておられることがうかがえました。その方法のひとつとして柘植さんがエコけんの会員であることを選んでくださったとしたら嬉しいことですし、その思いに応える活動をしなければと気を引き締めました。

未来を創るインタビュー

No.56 福岡教育大学初等教育教員養成課程2年

大塚 正利 氏

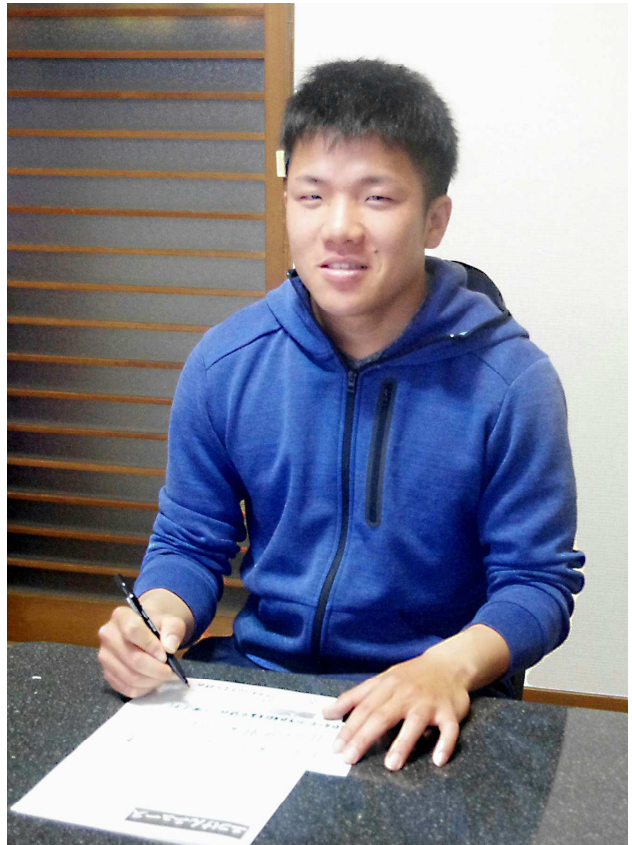
大塚さんは小学低学年の頃、友達と一緒にエコロの森のペットボトルロケット教室に参加したのがきっかけで、「かえっこ」の子どもボランティアとして活躍しました。小学5年生のころには、かえっこのミニイベントとして牛乳パック工作を提案したり、企画の手伝いもしてくれました。

まーくんの愛称で呼ばれ、おっとりした「かえっこマスター」だった少年は、頼もしい大学生になって私の前に現れました。近くの国立の福岡教育大学へと進んだ大塚さんは、現在小学校の先生を目指しています。中学生のころから始めた陸上競技は、今も続けているようで、なかなかお忙しい毎日のようです。

小学校の先生になりたいと思ったのは、高校の先生の影響があってとのこと。生徒の進路に関わることに魅力を感じたのでしょうか。子ども達の進路が、親の考えにしばられることなく、いろんな道に進み、将来、そんな子ども達と会うことが楽しみなのだとか。子どもの成長を見たいという大塚さんが、なんだか急に大人に見えました。

「ネパールに学校を建てる」募金活動をした時は、想像していたよりけっこうみんな寄付してくれた、と笑いました。善意がうれしかったようです。

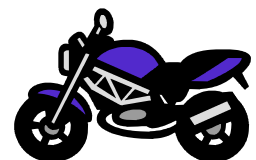
また、小学校の頃からいわれていた「元気にあいさつ」の大切さを感じるようになったそうです。大学に入り、なかなか地域の人と会うこともなくなったからなおさら地域の人とのつながりに気が付くのかもしれません。



未来を創る私の思い

「出合いを大切に」 自分の世界を広げよう

買ったばかりのバイクでのツーリングが楽しみだとか。東南アジアにも行ってみたいらしいと、とつとつと、言葉を選びながら話す大塚さんが、どんなおとなになるのか楽しみです。どうぞ、楽しく実りある大学生活をすごしてください。



《ひらっち》

「ぬりつなぎ計画」計画中!

新しい取り組み「ぬりつなぎ計画」についてお知らせします。

エコけんが一部運営委託を受けているエコロの森は、カラフルな壁面が印象的です。偶然通りかかった人が、興味を引かれて再生・展示棟に来てくださるくらい! 工場の壁面があのようアーチスティックなおかげで、清掃工場のイメージが刷新されたというのは言い過ぎでしょうか。実はその中で啓発活動を行う私たちにとって、その外見に大いに助けられています。場に興味を生み出すチカラを授けてくれたり、宝物を作り出す工作の雰囲気を醸し出すからです。

さて、古賀市にはエコロの森が建設された頃、あちこちに壁画が施されたそうです。その中には、風雨にさらされ経年劣化が目立っているところがあります。「ぬりつなぎ計画」は、その中の数カ所を塗り直そうという企画です。もちろんこの実施はエコけんだけのチカラでは無理です。タッグを組む最強メンバーをご紹介します。



▲アトリエブラヴォさんの作業の様子

JOY倶楽部アトリエブラヴォ

12名のアーティストの仕事は「描く」こと。障害福祉サービス事業所JOY倶楽部のアート部門として、自由に描くだけでなく注文に合わせた制作も行っています。アート制作で福岡から世界をまたにかけて作品を発信中。

坂崎 隆一 氏

地域活動をアートにする特殊なチカラを発信中。今回は、アートに素人のエコけんへ助言をしたり、塗りなおしのためのデザインなどを担当します。

古賀市

関係機関との調整を図る担当です。

エコけん

事務局と資金調達を担当します。

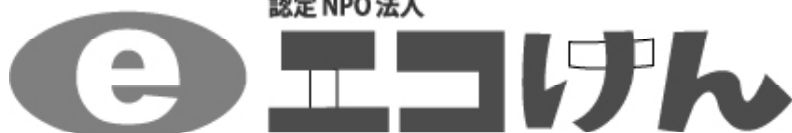


▲候補地の1つ「こがめルーム」

形あるものは廃れていきます。それは自明の理。それをどう持続可能な形につないでいくか、力を合わせて知恵をしばっています。これから「ぬりつなぎ計画」が実働的になるに従い、皆さんのボランティア参加や寄付の協力が必要です。これから随時、発信しますので、応援よろしくお願ひします。

《S》

認定NPO法人



〒811-3101 福岡県古賀市天神1丁目19-21
[TEL/FAX] 092-944-6450
[mail] ecoken@npo-ecoken.sakura.ne.jp
[HP] <http://www.npo-ecoken.sakura.ne.jp/>



ecoken